

新執行部の活動方針

平成 25 年 4 月の役員選挙の結果、6 月 22 日（総会、新理事による臨時理事会後）より公益社団法人日本心理学会の新執行部を以下の 8 名で務めさせていただくことになりました。任期は 2 年です。皆様のご支援、ご鞭撻をお願い申し上げます。

【理事長】

佐藤隆夫 事業執行の総括

【常務理事】

鈴木直人（総務担当） 理事長の補佐，倫理問題，学術大会

安藤清志（財務・渉外担当） 予算・財政状況の管理，決算，各種助成，国内諸団体との関係

阿部純一（編集担当） 機関誌編集，心理学ワールド編集，優秀論文賞

内田伸子（学術担当） 講演会，シンポジウム企画，調査研究，心理学叢書等

仲真紀子（国際担当） 国際的な学術研究協力，国際賞

横田正夫（資格担当） 認定心理士認定，認定教科書の企画

サトウタツヤ（広報担当） HP，新聞報道，メール配信，歴史資料の保存，博物館

佐藤執行部の 1 期目は、心理学関連団体唯一の公益社団法人としての再出発と同時でした。公益社団法人として、税制面など様々なメリットもありますが、同時に社会一般に開かれた学会として、研究成果の公表や、最近頻発している心の問題に関わるさまざまな出来事に対し、心理学的見地からの意見、対策を提案するなどの社会的責任を果たしていくことも義務として課せられました。これに関わる事業の一つとして、これまで年数回しか行ってこなかった公開シンポジウム・講演会を、日本全校で、昨年度（公開シンポジウム 9 会場、高校生のための心理学講座 8 地域）、今年度（公開シンポジウム 13 会場、高校生のための心理学講座 12 地域）で開催（開催予定も含む）し、多くの高校生、認定心理士、一般の方々に参加していただきました。また 2016 年に繁樹先生を組織委員長として横浜で開催される第 31 回国際心理学会議（ICP2016）を見据え、学会本部と学術大会の情報を一括して管理するシステムの構築を進めています。このシステムが導入されると学術大会の当番校の負担は大幅に減少し、学会本部で学術大会の運

営の多くの部分を担うことができるようになる」と期待されます。またこれに対応して学術大会委員会を発足させました。この新方式は来年の学術大会から本格的に運用される予定です。

佐藤理事長 2 期目の今期執行部は、5 名が前執行部からの継続であり、安藤常務理事が財務担当に代わった他は、1 期目と同じ役割を担うことになりました。また横田常務理事は今期で 3 期目の認定担当です。こうした意味で、安定した学会の運営ができるだけでなく、日本心理学会の将来、強いては日本の心理学界の将来を見据えた新規事業への取り組みを行う必要があると考えています。以下に新執行部が現在考えている事業の一部を簡単に紹介します。まだ正式決定しているわけではないことをお含みおきください。

①下部組織（研究、地域、若手）の創設 各種専門学会や地域学会と連携を視野に入れた研究分野ごとの部会、地域での部会、若手研究者の部会などを創設する体制づくりを考えています。

②日本心理学会の体質の強化と会員数増大 現在、認定心理士は日本心理学会の会員になれます。しかし研究を継続しているわけではないので学会員になるほどでもないが、心理学の最新の知識を得るために大会には参加し、話が聞きたい、また心理学ワールドはほしいと考えている認定心理士の方は意外に多いと思われます。こうした方々、また高校生などを準会員という形で受け入れていくのはいかがでしょうか。

③高校での心理学教育の充実 2011 年度に学術会議が主催して、高校での心理学教育を考えると題したシンポジウムが開催され、予想に反して多くの来場者がありました。現在全国で心理学を教えている高校は 20 数校だと思いますが、心の時代を反映し今後増加していくことが予想されます。こうした状況を受け、認定心理士の上位資格として心理学インストラクター資格（仮称）のような資格を創設し、日本心理学会として高校の心理学教育をバックアップする体制を作ったらどうかというものです。

④心理学の資格創設 これに関しては、もう少し、具体的になったところで、公にさせていただきます。実現すれば、認定心理士の資格に加えて、社会的ニーズに適合した攻めの資格の創設をということになります。

まだいろいろあるかと思います。もしご意見、アイデア等があれば遠慮なくどしどしお寄せください。

（総務担当常務理事・同志社大学教授 鈴木直人）